

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105123
法人名	有限会社 ライフサポート
事業所名	グループホーム 福平
訪問調査日	平成 20 年 3 月 17 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 22 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4670105123		
法人名	有限会社 ライフサポート		
事業所名	グループホーム福平		
所在地	鹿児島県鹿児島市下福元町7505番 (電話) 099 - 210 - 8550		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年3月17日	評価確定日	平成20年4月22日

【情報提供票より】20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 14.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42000円(光熱費込み)	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂之上生協クリニック・敬愛クリニック・永山歯科医院
---------	---------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、鹿児島市郊外の静かな住宅街にあり、広い敷地には同法人の系列の施設がある。ホームの庭には、入居者と職員が協力して作っている菜園があり、収穫した野菜が食卓にあがっている。入居者の笑顔を大事にしているホームは、月1回の夕食の機会をもったり、年1回の1泊旅行をユニットごとに行ったりと楽しみごとを作っている。本人らしく暮らしてもらえるように、ゆったりと笑顔で明るく接することを職員は心がけている。玄関の横にある桜が満開になる頃、花を見て喜ぶ入居者とそれをみて笑顔の職員の様子が目に浮かぶようである。今後は、行政や地域との連携をさらに深めることで、サービスの向上につながる事を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果については、職員にも報告されている。改善課題は緊急時の手当てであったので、消防署から来てもらい人工呼吸の仕方やAEDの操作方法などの講習会を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を行うことの意義については、理解されているが、取り組み時期が少し遅かった為に、職員全員の意見をまとめあげるにいたっていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、民生委員、家族代表、包括支援センターの職員が参加している。討議内容については、事業所の現状報告や認知症などの勉強会などにとどまっている状況である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見や苦情などは、意見箱を設置して対応している。また、家族会も年1回開いて意見や要望などを出してもらえるようにしている。家族の相談等については、スタッフ会議で話し合い全職員で共有している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会への加入は、母体が法人であるという事で断られているが、地域の行事、運動会や夏祭り等への参加は歓迎されている。事業所は地域の資源回収時に場所を提供したり、清掃活動に参加するなど、積極的に交流に努めている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体として、地域の中でその人らしく安心して暮らし続ける、という理念を掲げて、利用者に応じた介護と介助を心がけている。		法人全体の理念の他に、一つのユニットにおいてサブテーマを掲げているように、事業所独自の理念を職員全員で意見を出し合って作りあげられるように希望します。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングにおいて理念を唱和し、スタッフルームに理念を掲示して職員の意識づけを行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体が法人ということで町内会への加入は断られているが、夏祭りや運動会などの行事への参加は行われている。地域の資源回収時の場所を提供したり、清掃活動などに参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価の結果については職員に伝えられ、要改善箇所については改善がなされている。自己評価の意義については理解しているが、取り組み時期が遅れ項目によって職員の意見を聞いただけに留まっている。		自己評価に職員全員で取り組むことによって、改善内容を確認しサービスの向上につながることを期待します。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。参加者は民生委員、家族代表、包括支援センター職員などで討議内容については、事業所の報告などを行い理解をもとめている。		事業所の取り組み内容や改善課題を話し合い、サービスの向上に活かしていく会議にするためにも、幅広い立場の人に参加してもらえるように工夫されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議へは今年から包括支援センター職員が出席してもらえるようになり、南部保健センターに栄養管理内容を見てもらいアドバイスを受けるなど働きかけている。		市町村窓口で事業所側から出かけていくだけでなく、運営推進会議への参加を呼びかけたり、日頃から事業所に来ていただける機会を作るなど、工夫されることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月一回請求書を送付する時に、一人ひとりについて日頃の様子や健康状態など書いて報告している。金銭出納簿については、領収書を渡しサインを頂いているが、来られないときには領収書と出納簿のコピーを送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年1回、誕生会とクリスマス会を兼ねて開催されている。相談や意見などは面会時に個別に伺ったり、電話で伺った時には職員に伝えスタッフ会議などで話し合い運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職に伴う引継ぎは、十分時間を取っているが、どうしても職員の確保ができない時には、同法人の施設から来てもらっている。今のところ利用者の対応に大きな変化は見られない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	谷山地区が開いている勉強会に参加している。参加した職員はレポートを提出しスタッフ会議で研修を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区の勉強会に参加しているが、他の事業所の職員との交流には至っていない。		開設から2年が過ぎ、課題も出てきて他の事業所への見学をしていきたいと考えていたところである。他の事業所との相互訪問を実現させることにより、サービスの質を向上させていかれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者に安心していただけるように、事前に家族と共に見学に来てもらい雰囲気を感じてもらっている。病院などに入院している方には、職員が会いに行き馴染めるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握しており、レクレーションなどで得意分野を発揮してもらえるように場面作りをしている。踊りの上手な方に教えてもらったり、歌をうたってもらったり、野菜作りの指導をもらうなど、お互いに学び、支え合う関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者が希望している事は出来る範囲で叶えるようにしている。意思確認が困難な方については、日々の行動や表情などから把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケース会議は毎月行われ、モニタリングは3ヶ月に1度行われている。家族や職員の意見・気づき、医師によるアドバイスを受け介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>特に大きな変化がない利用者については6ヶ月ごとの見直し、変化のあった利用者については、その都度職員会議で現状に沿った計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診が困難な方や、入院した方の早期退院の支援として往診をしてもらっている。家族の要望に応じて通院介助も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。職員が受診に付き添った時は、家族に電話で必ず報告している。また病院からの指示は職員全員で共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けての対応については家族・医師・看護師との話し合いが行われ、意見は統一されている。緊急時の対応についての書類を作成し、確認の署名を頂く準備をしている。		現在、状態の不安定な利用者もあり、緊急時の対応についての書類作成は、早急に進められることを希望します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は日々の業務や会議等で声かけの重要性について指導しているので、職員も認識している。個人情報については、理解を求め書類に残している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調にあわせ朝寝坊したり、朝食を部屋で摂ったりしている。また、毎日お散歩に行く方や買い物希望する方には車で連れて行くなど、それぞれのペースにあわせ希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量にあった手伝い、盛り付けや野菜の下ごしらえ、ランチョンマットを敷くなどを行っている。また、月1回の外食を楽しみにしており、メニューは利用者の希望にあわせている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番を希望通りにしたり、温泉の素を入れたり、拒否する人には、声をかける職員を変えたり、時間をおいたり工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴を把握しており、それぞれにあった役割、野菜作りや掃除のモップかけ、洗濯物をたたむなど、行っている。梅干し作りやラッキョウ作りなどでは力を発揮してもらっている。年1回、一泊の温泉旅行も全員で行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの庭は広く芝生になっているので天気の良い日は庭でお茶を飲んだり、お花見やドライブなどに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵はかけていない。利用者の外出傾向は把握しており、職員が後からついていくようにしている。また、近所には理解を求めており、交番にも連絡して対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災を想定した消防訓練を行っている。緊急時の手当てについては、昨年度の要改善であったので講習会を行っている。		年2回の消防訓練の他に、地震・風水害を想定した自主訓練を行い、職員が自信をもって避難誘導できるように期待します。また、地域の人々の協力が得られるように働きかけ、非常食と飲料水を準備されることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、保健センターで調理方法などのアドバイスを受けている。水分量についてはチェックをし、補給が困難な人に対しては、お茶ゼリーを作って摂取している。		保健センターでアドバイスを受けているので、さらにカロリー・栄養バランスなどもチェックしてもらうことを希望します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階には階段とエレベーターで行くようになっている。玄関先には花が植えられ、リビングは大きな窓から陽が入り明るく、ソファ、テーブルが置かれ腰をかけられる高さに和室がある。台所は対面式になっていて職員と会話したり、テレビを見たりして過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、備え付けの畳のベットと小さなタンスがあり、他の備品は持ち込みとなっている。使い慣れた椅子や家族の写真立て、アルバム、ぬいぐるみなどが持ち込まれている。		職員は入居に際して、家族に馴染みのものを持ってきてほしいと説明しているが、病院や施設から入居される方も多く荷物も少ない。もう少し本人らしさが表われるように工夫される事を期待します。